

【病院運営領域】

＜中長期計画_基本目標＞病院資源の効率的活用による診療の充実、高い診療能力・専門性・人間性を備えた医療人の育成、医薬融合による創造的な臨床研究の推進及び経営基盤の強化を通して病院機能を向上させ、以って、東北の地域医療発展の推進役を担う。

※ 本院＝東北医科薬科大学病院 若林病院＝東北医科薬科大学若林病院

中長期計画 行動目標	中長期計画_行動計画	令和6年度 事業計画
1. 診療・経営 (1) がん診療・地域医療・救急医療・災害医療・超高齢者医療等の社会的要請に対応し、良質でかつシームレスな医療サービスを提供する。 (2) 医療の質と安全性の向上を推進するため、特定機能病院の取得を通じて医療安全・感染対策等に関わる取組・体制をさらに充実させる。 (3) 診療報酬改定、消費税の引き上げ、労働法制の改正など社会的変化に対応できるよう病院経営基盤を強化する。	1) 本院・若林病院の診療機能を効率的に分化し先進・高度急性期から急性期、慢性期、回復期、地域包括ケア、在宅医療まで良質でかつシームレスな医療サービスを提供する。	＜附属病院間の機能分担と連携＞ (本院・若林病院) ① 病院将来構想検討委員会のもと、附属病院の建替え計画と併せて将来の機能分担や診療体制など今後の展望について議論していく。 なお、引き続き若林病院においては、本院への転院搬送患者数 50 人の目標を 2 年前倒し、2027 年達成を目指す。 また、各種検査等の本院委託(内製化)を進める。 ＜地域医療支援体制＞ (本院) ② 後方支援病院(慢性期・回復期・地域包括ケア病棟・介護医療院)、在宅支援診療所及び訪問看護ステーションとの連携を推進し、体制強化を図る。 ③ 地域における医療・介護・福祉連携の充実を図る。 ④ 石巻プロジェクトにおいては、地域でのNP業務の本格運用が行えるよう、引き続き活動の支援を継続する。 (若林病院) ⑤ 本院・若林病院それぞれの強みを活かし、他医療機関との連携の拡充・強化を図る。 ⑥ 連携先との意見交換や勉強会、ニーズ調査等を通じた交流の推進を図る。
	2) 地域がん診療連携拠点病院の取得を目指し、病棟、外来の効率的な運用をより一層進めるとともに、緩和ケアを含む包括的ながん診療が可能なキャンサーユニットを構築する。	＜地域がん診療連携拠点病院としての取組強化＞ (本院) ① 地域がん診療連携拠点病院として、第4期がん対策基本計画に沿った改善を進める。また、地域の啓発、連携推進を目的とした企画を継続して行う。 ② がんゲノム医療連携病院として、がん遺伝子パネル検査を提出するための体制および遺伝カウンセリングなどの遺伝子診療の体制を整備し、がんゲノム医療を院内および地域に普及させる。 ＜病院機能の維持と向上＞ (本院) ③ 地域がん診療連携拠点病院における患者相談体制の充実を図る。特に、患者さんやそのご家族が、がんと診断された段階より、相談できる窓口を知ってもらうために周知を強化する。 多様化・複雑化する相談援助業務に対して、専門性を発揮できるよう、研修会等への参加や関係機関との面会を定期的に行う。 院内でのサロンの充実を図る。 宮城産業保健総合支援センターと連携し、ハローワークによる出張相談窓口の設置を具体化させる。 ④ 令和5年度より、宮城県脳卒中相談窓口の設置に伴い、県内の急性期病院・回復期リハビリテーション病院等の連携が円滑になるよう、当院も参画し、ネットワークを強化する。 ⑤ 難病医療協力病院として、難病患者支援の相談業務の体制を維持する。ハローワーク等の就労関連や患者会その他、難病に関連する機関より得た情報を院内に周知し、相談援助の専門性を高めるとともに、難病医療連携協力体制を充実させる。 (若林病院) ⑥ 入退院支援体制の強化による効率的な病棟、外来の運営に努める。 リハビリテーション機能を強化しながら、地域包括ケア病床の再開を準備し、回復期機能の向上を図る。 ⑦ 医療相談の強化による患者支援、医療連携の充実を図る。 ⑧ 医療安全・感染管理体制の強化を図る。 ⑨ 診療機能に合った人的資源の確保と能力向上に努める。

中長期計画 行動目標	中長期計画_行動計画	令和6年度 事業計画	
1. 診療・経営 (1)がん診療・地域医療・救急医療・災害医療・超高齢者医療等の社会的要請に対応し、良質でかつシームレスな医療サービスを提供する。 (2)医療の質と安全性の向上を推進するため、特定機能病院の取得を通じて医療安全・感染対策等に関わる取組・体制をさらに充実させる。 (3)診療報酬改定、消費税の引き上げ、労働法制の改正など社会的変化に対応できるよう病院経営基盤を強化する。	3)特定機能病院の取得を目指し、その機能に応じた役割を果たすために診療・臨床研究の総合的な強化を進める。	<特定機能病院に向けた体制整備> (本院) ①特定機能病院の申請に必要な手続き等について他部署との調整を推進する。 ②プログラム説明会の開催や民間のリクルートフェア等への参加により積極的に広報し、研修医の確保に努める。救急に積極的な研修医の獲得や、研修医が救急で活躍できるような学びの場の提供や案内を行う。 ③インシデント報告の原因究明・分析に基づき再発防止の徹底を図るとともに、職員の医療安全への意識向上や安全文化の醸成のため、職種横断的な医療安全活動の推進を強化する。 ④発生したインシデントを定期的にフィードバックし、医師からのインシデントの報告率の増加と報告文化の定着に努める。随時、医療安全管理マニュアルを改訂し医療安全対策の徹底を図る。 ⑤感染対策委員会と感染対策実務委員会の体制を定着させ、院内感染対策活動の推進を図る。また、医療関連感染サーベイランスのシステムを再構築し、感染率の把握とともに院内感染対策の評価と改善活動を推進する。 ⑥臨床工学部主導による特定管理機器の定期的な安全研修会を開催し、院内スタッフの医療安全の知識・技術の向上を担保する。また、医療関連感染サーベイランスのシステムを再構築し、感染率の把握とともに院内感染対策の評価と改善活動を推進する。 ⑦電子カルテは安定的に運用できている。今後は高度な医療機能の提供に耐え得る院内ネットワーク整備・強化を進めるほか、診療科、部門からの要望に応じた診療データの抽出と提供を行う。 ⑧診療録の質的な精度管理のための医師によるカルテ相互監査を安定的に実施する。 ⑨検査部においては、国際規格 ISO 15189に基づく継続的な検査の向上を行う。質の高い検査のため、資格取得を促進し、学術活動にも継続的に取り組み、英語論文年間3報以上の出版を目指す。同時に、検査部運営委員会の効率的な運用により、検査項目の見直しを適宜行う。 また、必要に応じ外部からの受託検査や検査応援に対応していき、臨床検査技師会の学術活動を通じ、他施設や時には社会一般に対し、検査に関わる理解の向上を図り、社会貢献を目指していく。 <高度な医療の提供> (本院) ⑩麻酔科医の増員に努め、麻酔科管理手術件数の増加を図る。 ⑪保険適用になっているロボット支援手術の対応範囲を拡大し、手術支援ロボットの稼働率を向上させる。 ⑫消化器癌の手術症例数の増加を図る。	
	4)戦略的な収益向上策とコスト管理手法の検討等により、安定的な経営基盤を確保し医療環境を整備する。	本院 若林病院 共通	<経営管理> (本院・若林病院) ①診療科別の収支や各種指標等、月次統計資料の内容と必要性等を見直し、病院の戦略により活用できる形を検討していく。(データの集積だけにとどまらず、各診療科、各部署、各委員会等における活用の視点) ②業務評価制度導入に向けた予定等作成の検討を継続する。 <環境への対応> (本院・若林病院) ③本院放射線部においては、タスク・シフティングによる診療放射線技師の業務の拡大や認定資格の取得も完了したため、①造影剤・放射性医薬品の手押し注入、②抜針、③静脈路確保の順での本年度中の本格運用をめざす。 ④本院放射線部においては、放射線業務従事者の水晶体の被ばくを測るために、新しい測定法を導入し的確な被ばく軽減を図っていく。 ⑤若林病院においては、オンライン診療の拡大を図る。

中長期計画 行動目標	中長期計画_行動計画	令和6年度 事業計画
1. 診療・経営 (1)がん診療・地域医療・救急医療・災害医療・超高齢者医療等の社会的要請に対応し、良質でかつシームレスな医療サービスを提供する。 (2)医療の質と安全性の向上を推進するため、特定機能病院の取得を通じて医療安全・感染対策等に関わる取組・体制をさらに充実させる。 (3)診療報酬改定、消費税の引き上げ、労働法制の改正など社会的変化に対応できるよう病院経営基盤を強化する。	4)戦略的な収益向上策とコスト管理手法の検討等により、安定的な経営基盤を確保し医療環境を整備する。	本院 ＜収益の向上＞ (本院) ①稼働率の向上を目指す。(80%以上を確保)また併せて、各種費用削減・低減策を促進していくとともに、継続した費用の見直しに取り組む。 ②コメディカル等、各部署の年間活動目標に掲げている指導料・加算等の算定向上に取り組み、収益向上を目指す。
		若林病院 ＜収益の向上＞ (若林病院) ①病棟の効率的運営による病床稼働の維持・向上を目指す。(年間の病床稼働率80%以上を確保) ②手術件数を維持・増加に努める。 ③入院基本料等の確保に努める。 ④外来収益の向上を目指す。 ⑤連携機能の強化を促進する。 ⑥ローコストオペレーションの強化を図る。 ⑦外来看護体制の検討を進める。 ⑧健診・人間ドック部門の強化を目指す。
2. 教育・研究(1)東北の地域医療に貢献し得る良質な医療人を育成するため、臨床教育・研修機関として大学病院の使命を果たす。(2)医薬の連携を強化し臨床研究分野において横断的、かつ融合的な協力関係を展開することにより、実用化も視野に、新しい独創的なアイデアを創出し、国内外で活躍できる研究者を養成する。	1)入学志願者に向けた大学病院の広報のために、入試センターとの連携を強化する。	入学者選抜領域 2-8)と同じ
	2)卒前臨床実習、卒後臨床研修の連携を強化し、臨床初期教育の一元化に向けた体制を整備する。	＜医育医療機関としての体制整備＞ (薬剤部) ①薬学生の実習受入体制を維持し、目標値達成をめざす。 チーム医療への参画や本学医学部および宮城大学看護学部と連携した多職種連携教育といった、より実践的な教育プログラムの展開を目指す。 (卒後研修支援センター) ②研修医の研修や形成的評価の機会の充実、研修プログラム及び研修修了後の支援体制の整備を図る。 また、外部の第三者評価の受審に向け準備を進める。 ③学会発表の機会をつくる。また、学術活動ができる環境を整備する。 ④協力病院・施設との連携を強固にし、プログラムの充実を図る。 ⑤専門研修プログラムの整備と臨床研修との連携強化を推進する。 ⑥臨床研修修了後の大学院進学を推進する。

中長期計画 行動目標	中長期計画_行動計画	令和6年度 事業計画
2. 教育・研究(1) 東北の地域医療に貢献し得る良質な医療人を育成するため、臨床教育・研修機関として大学病院の使命を果たす。(2) 医薬の連携を強化し臨床研究分野において横断的、かつ融合的な協力関係を展開することにより、実用化も視野に、新しい独創的なアイデアを創出し、国内外で活躍できる研究者を養成する。	3) 医学部及び薬学部の特性を活かして、臨床研究・医薬相互研究を推進するとともに、社会の要請に応じた先進的医療を開発・導入する。	(臨床研究推進センター) ①研究基盤となる人材の育成を進めるため医学研究科大学院生、薬学部実習生等へ治験・臨床研究に関する解説等を行い啓発していく。また、生命薬科学科の将来構想を踏まえ、臨床研究実習の準備を進める。 ②教育・研修の手順書に基づいた教育・研修講座を開催し、医師、他の医療従事者へ適正な臨床研究の実施について啓発していく。 ③CRC業務、データマネジメント等の研究支援業務を推進し、臨床研究を促進・活性化していく。 ④治験の活性化を目的とした広報活動を行う。
	4) 東北地方が抱える地域医療における様々な課題を解決するため、産学官の連携を強化し共同研究・開発を推進する。	研究領域 4-1)、2)に同じ
3. 社会貢献 (1) 将来の就労人口の減少に備え、ITやAIを活用し、地域住民の健康寿命の延伸に寄与する地域包括的健康管理システムを構築する。 (2) 少子高齢化社会の進行に伴う在宅介護医療・予防医学に対する需要の拡大を見据え、地域の保健活動強化に貢献する。 (3) 広域災害発生に備え、災害時でも自立した病院運営が可能な施設整備を行う。 (4) 医療・教育・研究に亘る大学病院の活動を社会に説明する。	1) ITやAIの健診領域への導入等により、新たな健診システムの構築や検診データの利活用を模索する。	(若林病院) ①健診データのマイニングの検討や新たな検査手法の導入による予防医学領域の強化を進める。
	2) 先進医療から公衆衛生学的な医療情報を提供し地域の健康への意識改革を推進する。	(本院) ①市民公開講座及び院内イベントの定期開催を検討し、地域への情報発信を推進する。 (若林病院) ②医療機関向け情報冊子発行等による継続的な情報発信を行う。 ③疾患領域ごとの患者教育の充実を図る。 ④健康づくりフェア(対地域)や各種セミナー(対取引先等)の継続実施に努める。 ⑤低廉・簡便な血液検査(プチ健診)を継続実施する。
	3) 災害拠点病院として、広域災害時、周辺地域住民に安定的な診療を提供できるよう運営・設備の整備を推進する。	(本院) ①事業継続計画(BCP)の現状を踏まえて、災害時の対応手順を見直す。 ②地域住民との連携について、具体的な方法・計画を検討する。 (若林病院) ③事業継続計画(BCP)の課題を抽出し、ブラッシュアップに努める。 (福室キャンパス施設課) ④医学部として、本院における災害拠点病院の運営・設備の整備の推進に向けた事業継続計画(BCP)や地域住民との防災訓練等の事項に対し、協力を求められた際、協力するよう努める。
	4) 病院活動の広報内容や広報体制の充実を図る。	(本院) ①病院ホームページの迅速な情報更新に努め、集患に繋がる効果的な広報活動に努める。 (若林病院) ②病院ホームページの充実と患者情報誌による効果的な情報発信に努める。 ③病院パンフレットの内容充実を図る。 ④精度調査(患者満足度調査)の実施体制を検討する。